

視覚障害学生の職業興味について(Ⅲ)

石田久之

(教育方法開発センター)

要旨

本研究は、職業に対する興味・態度が、視覚情報の欠如、或いは、減少等から影響を受けるのか否かについて検討した。

調査対象者は、視覚障害者114名と健常者92名であり、VPI職業興味検査【改訂版】を用いて調査を行った。

健常者に比べ、視覚障害者においては、特に、福祉、教育などに関わるものへの興味が低く、逆に職業自立に直接的に関わるような職業への関心が強かった。視覚障害者群内で、弱視と全盲の間に違いは見られなかった。

また、職業に対する心理特性の内的構造を尺度間の相関としてみたとき、三者間に際立った違いは認められなかった。

キーワード

視覚障害 職業興味

1. はじめに

自らがどの様な職業に適性を有し、実際にやることが出来るのかということについては、高等学校や大学などの教育課程を修了するあまり早くない時期に決めるのが、一般的である。しかし、職業への関心・興味は、漠然とした形ではあっても、幼い時期から、生じるものである。近くは、親・兄弟の職業、日常、目・耳にするもの、また、テレビや本など、様々なメディアからの情報にさらされ、人間としての自立という考えまでは至らないにせよ、関心・興味を膨らませていくものである³⁾。

しかしながらこの様なことを考えると、情報の入手が困難な場合、職業への関心・興味はどうなるのであろうか。

視覚障害者は“情報障害”といわれる。視覚による様々な情報の入力膨大な量であり、これに障害がある場合、そのハンディキャップもまた、深刻である。様々な障害補償機器などが、開発されているが、健常者の視覚を完全に補えるものはない。特に視覚情報というものは、受動的にも絶え間なく入力されている。駅で見るともなく見る広告など良い例である。

このように視覚障害者においては、様々な情報が入力されないままとなっており、このことは職業への興味・関心においても、同様な結果を生じさせることになる。

本研究は、この様な情報入力の著しい偏りから、視覚の有無により職業への興味・関心に違いがあるのか否か

を検討することを目的とした。

具体的には、職業興味検査を用い、健常者、弱視者、全盲者の間で、様々な職業に対し興味があると回答した数、尺度間の相関を検討した。

2. 方法

2.1 調査対象

〈素点〉

素点についての調査対象は、短期大学に在籍する視覚障害者114名(男性82名、女性32名)と大学に在籍する健常者36名(男性12名、女性24名)とした。視覚障害群は、全盲者23名(男性18名、女性5名)及び弱視者91名(男性64名、女性27名)であった。

〈尺度点〉

尺度点については、健常者を92名(男性31名、女性61名)とした。視覚障害群については、素点での検討と同様である。

2.2 職業興味検査

職業に対する興味、態度を測定する検査として、「VPI職業興味検査【改訂版】」を用いた。これは、160の具体的な職種に対する興味・関心の有無を回答させることにより、6種の職業興味領域に対する個人の興味・関心の強さを測定するとともに、あわせて個人の心理的傾向を5領域について把握しようとするものである。

各尺度の種類とその内容は以下の通りである。

《興味領域尺度》

- ・現実的：機械や物を対象とする具体的で実際的な仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す。
- ・研究的：研究や調査などのような研究的、探索的な仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す。
- ・社会的：人に接したり、奉仕したりする仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す。
- ・慣習的：定まった方式や規則に従って行動するような仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す。
- ・企業的：企画や組織運営、経営などのような仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す。
- ・芸術的：音楽、美術、文芸など芸術的領域での仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す。

《傾向尺度》

- ・自己統制：自己の衝動的な行為や考えをどの程度統制しているかを示す。
- ・男性-女性：伝統的な性役割にどの程度こだわっているかを示す。
- ・地位志向：社会的威信や名声、地位や権力をどの程度重視するかを示す。
- ・希有反応：職業に対する見方がどの程度ユニークであるかを示す。
- ・黙従反応：どの程度幅広くさまざまな職業に関心をもっているかを示す。

2. 3 実施方法

検査及び回答の集計は、「VPI職業興味検査手引【改訂版】検査の実施及び採点の方法」にそって行った。

回答の仕方は、興味・関心がある職種については“はい(Y)”に、ないものについては“いいえ(N)”に印を付け、どちらとも言えないものは無印のままにしておくというものである。

なお、全盲者用には検査を点訳した。

集計後の処理は、どちらともいえないという回答(無印)を“いいえ”と同様に扱い、健常群、視覚障害全盲及び弱視全三群間について、各職業毎に、“はい”と“いいえ”の度数の偏りについてカイ自乗検定を行い、各尺度間の内部相関を検討するために、相関係数を算出した。

3. 結果

3. 1 各職業への興味について

表1は、160の職業全てについて、カイ自乗検定を行った結果である。健常、弱視、全盲の3群に関して、“はい”と“いいえ”の回答の度数の偏りを検討した。

統計的に有意な人数の偏りを示したのは28種であっ

た。これらについて、残差分析を行った。結果を表2に示した。

28種の職業をを分類すると次のようになった。

健常群の興味の度数が、視覚障害群(全盲群、或いは、弱視群、或いは両二群)よりも多い職業で、幼稚園教員、臨床検査技師、言語治療士、青少年指導員、臨床心理学者、児童福祉キャンプ指導員、カウンセラー、看護婦(士)、精神科ケース・ワーカー、薬剤師、ソーシャル・ワーカー、非行少年補導員の12種であった。

視覚障害群の興味の度数が、健常群よりも多い職業で、マッサージ師、無線技師、電子計算機オペレーター、物理学者、電気技師、自動車整備士、機械技師の7種であった。

全盲群と弱視群とで傾向が異なる職業で、写真家、理学療法士、社会科教師、発破係、国語科教師、福祉事務所所長、ディーゼル機関士、音楽家、新聞記者の9種であった。

3. 2 各尺度点について

表3は、11の尺度について、健常、弱視、全盲3群のそれぞれの平均と標準偏差を示している。分散分析の結果、表4に示すように、社会的興味領域尺度($F(2,203)=25.724, p<.01$)、男性-女性傾向尺度($F(2,203)=12.069, p<.01$)、希有反応傾向尺度($F(2,203)=3.167, p<.05$)の3つの尺度で群間に有意な差が認められた。これらについて、LSD法による多重比較を行ったところ、社会的興味領域尺度と男性-女性傾向尺度では健常と弱視、健常と全盲で、希有反応傾向尺度については健常と弱視の間で有意差が見られた。

3. 3 尺度間の相関について

表5～7は、尺度間の相関を示したものである。健常群(表5)においては、興味領域尺度の全ての組み合わせにおいて、正の相関を示した。これらは、全て統計的に有意であった。傾向尺度において、自己統制傾向尺度は他四尺度と、男性-女性傾向尺度は黙従反応以外の他三尺度との間で正の有意な相関が見られた。更に、黙従反応傾向尺度は、興味領域の全六尺度と正の有意な相関を示した。

弱視群(表6)においても、興味領域尺度の全ての組み合わせにおいて、正の有意な相関を示した。傾向尺度においては、黙従反応と男性-女性・希有反応以外の尺度間で正の有意な相関が見られた。更に、黙従反応は、興味領域の全六尺度と正の有意な相関を示した。

全盲群(表7)では、興味領域尺度の全ての組み合わせにおいて、正の相関を示した。この中で1%水準で統計的に有意な相関は芸術的と現実的、芸術的と研究的、企業的と社会的、企業的と慣習的の各尺度間、5%水準で

表1 カイ自乗分析結果

職業	df	カイ自乗値	職業	df	カイ自乗値
ジャーナリスト	2	3.313	小説家	2	5.838
私立探偵	2	5.628	パワーショベル運転工	2	2.128
レストラン従業員	2	5.264	人類学者	2	.187
シナリオライター	2	4.700	結婚カウンセラー	2	1.220
小売店員	2	.014	信用貸付調査係	2	4.838
出札係	2	.849	テレビ・プロデューサー	2	.175
写真家	2	10.159 **	商業デザイナー	2	2.611
ユーモア作家	2	3.442	動物調教師	2	1.133
インテリア・デザイナー	2	1.682	セールスマン	2	3.485
外交官	2	4.280	栄養士	2	3.819
航空機整備員	2	1.641	レジ係	2	.609
気象学者	2	1.646	測量技師	2	1.414
社会学者	2	1.289	動物学者	2	1.534
簿記事務員	2	4.067	小、中学校校長	2	1.952
相場師	2	.455	法廷速記者	2	4.968
詩人	2	5.028	ホテル・マネージャー	2	.693
潜水士	2	2.506	フリー・ライター	2	3.655
芸人	2	1.425	スタントマン(映画等)	2	1.865
航空機操縦士	2	.651	商社員	2	3.444
弁護士	2	3.015	工場長	2	.653
野生動物保護監視員	2	1.741	ホテルのボーイ・メード	2	3.804
生物学者	2	3.797	建築設計技師	2	2.394
高校教師	2	3.300	化学者	2	2.072
秘書	2	4.337	青少年指導員	2	7.954 *
商品仲買人(バイヤー)	2	1.385	銀行窓口出納員	2	1.877
オーケストラ指揮者	2	.752	会社社長	2	.311
建築物解体業者	2	3.739	編曲者	2	5.668
獣医	2	.335	競馬騎手(ジョッキー)	2	4.153
幼稚園教員	2	21.432 **	研究員	2	.760
医師	2	3.210	プロゴルファー	2	5.170
葬儀師	2	3.677	銀行頭取	2	2.461
演出家	2	.061	無線技師	2	12.512 **
ディスク・ジョッキー	2	.694	研究所所長	2	.163
出荷・受荷係事務員	2	.035	臨床心理学者	2	13.131 **
犯罪心理学者	2	3.288	税理士	2	3.418
保健事務員	2	1.414	レストラン支配人	2	3.150
清掃員	2	.152	イラストレーター	2	2.875
集金員	2	1.060	オートバイ・レーサー	2	3.765
ガソリンスタンド従業員	2	.211	理学療法士	2	13.097 **
マッサージ師	2	13.366 **	各省局長	2	.502
大工	2	.807	郵便配達員	2	.807
臨床検査技師	2	15.239 **	システム・エンジニア	2	3.442
言語治療士	2	17.492 **	科学評論家	2	.103
公認会計士	2	2.587	社会科教師	2	6.507 *
知事	2	.015	公務員	2	5.361
文筆家	2	5.028	司会者	2	.874
消防士	2	.907	肖像画家	2	.333
経営コンサルタント	2	.348	発破係	2	7.817 *
美容師	2	4.307	警察官	2	1.173
国語科教師	2	9.269 **	判事	2	2.091
国連職員	2	1.105	機械工	2	4.774
植木職	2	.981	学芸員(博物館)	2	3.404
科学雑誌編集者	2	1.469	精神科ケース・ワーカー	2	12.229 **
福祉事務所所長	2	11.138 **	絵与係事務員	2	.734
電子計算機オペレーター	2	7.068 *	政治家	2	.502
チェーン店社長	2	.163	劇作家	2	1.684
声楽家	2	3.578	テスト・パイロット	2	2.587
麻薬取締官	2	3.636	スポーツ指導員	2	.060
宇宙飛行士	2	1.619	物理学者	2	6.910 *
スチュワーデス	2	5.818	トラック運転手	2	.571
大学教授	2	.115	電気技師	2	7.115 *
長距離バス運転手	2	.382	考古学者	2	.876
地質学者	2	.253	職業相談員	2	2.658
児童福祉キャンプ指導員	2	18.513 **	銀行監査係	2	.439
プログラマー	2	1.612	セールス・マネージャー	2	.194
不動産外交員	2	1.125	漫画家	2	2.822
作曲家	2	3.449	自動車レーサー	2	2.072
登山家	2	.348	薬剤師	2	7.689 *
料理長	2	.031	ソーシャル・ワーカー	2	21.206 **
総務部長	2	1.168	販売事務員	2	.917
プレイガイド従業員	2	3.452	自動車整備士	2	12.980 **
ディーゼル機関士	2	6.291 *	天文学者	2	3.598
植物学者	2	1.010	非行少年指導員	2	18.977 **
カウンセラー	2	12.844 **	会計監査員	2	2.521
原価計算係	2	1.295	広告業者	2	1.653
広報課長	2	.855	音楽家	2	6.032 *
彫刻家	2	.505	放射性廃棄物取扱技術者	2	.813
探検家	2	2.605	新聞記者	2	6.070 *
スタイリスト	2	4.144	機械技師	2	8.883 *
看護婦(士)	2	8.657 *	バーテンダー	2	3.067

*: p < .05, **: p < .01

表2 残差分析結果

幼稚園教員				ソーシャル・ワーカー			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	4.619 **	-3.031 **	-1.434	YES	4.521 **	-2.566 *	-1.953
NO	-4.619 **	3.031 **	1.434	NO	-4.521 **	2.566 *	1.953
臨床検査技師				非行少年補導員			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	3.897 **	-2.592 **	-1.164	YES	4.349 **	-2.887 **	-1.306
NO	-3.897 **	2.592 **	1.164	NO	-4.349 **	2.887 **	1.306
言語治療士				マッサージ師			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	4.045 **	-2.097 *	-2.019 *	YES	-3.653 **	2.681 **	.748
NO	-4.045 **	2.097 *	2.019 *	NO	3.653 **	-2.681 **	-.748
青少年指導員				無線技師			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	2.681 **	-1.269	-1.504	YES	-2.728 **	.327	2.849 **
NO	-2.681 **	1.269	1.504	NO	2.728 **	-.327	-2.849 **
臨床心理学者				電子計算機オペレーター			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	3.570 **	-2.957 **	-.269	YES	-2.472 *	1.050	1.551
NO	-3.570 **	2.957 **	.269	NO	2.472 *	-1.050	-1.551
児童福祉キャンプ指導員				物理学者			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	4.281 **	-2.716 **	-1.459	YES	-2.055 *	.287	2.091 *
NO	-4.281 **	2.716 **	1.459	NO	2.055 *	-.287	-2.091 *
カウンセラー				電気技師			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	3.391 **	-1.568	-1.953	YES	-2.503 *	1.111	1.505
NO	-3.391 **	1.568	1.953	NO	2.503 *	-1.111	-1.505
看護婦(士)				自動車整備士			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	2.876 **	-1.589	-1.302	YES	-2.899 **	.528	2.781 **
NO	-2.876 **	1.589	1.302	NO	2.899 **	-.528	-2.781 **
精神科ケース・ワーカー				機械技師			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	3.473 **	-2.158 *	-1.245	YES	-2.653 **	.907	1.964 *
NO	-3.473 **	2.158 *	1.245	NO	2.653 **	-.907	-1.964 *
薬剤師				写真家			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	2.764 **	-1.790	-.891	YES	2.656 **	-3.122 **	1.062
NO	-2.764 **	1.790	.891	NO	-2.656 **	3.122 **	-1.062
理学療法士				福祉事務所所長			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	1.715	1.050	-3.509 **	YES	3.142 **	-3.014 **	.326
NO	-1.715	-1.050	3.509 **	NO	-3.142 **	3.014 **	-.326
社会科教師				ディーゼル機関士			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	1.762	-2.550 *	1.359	YES	-6.79	-1.234	2.507 *
NO	-1.762	2.550 *	-1.359	NO	6.79	1.234	-2.507 *
発破係				音楽家			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	.000	-1.982 *	2.712 **	YES	-.564	-1.297	2.456 *
NO	.000	1.982 *	-2.712 **	NO	.564	1.297	-2.456 *
国語科教師				新聞記者			
障害	健常	弱視	全盲	障害	健常	弱視	全盲
YES	2.906 **	-2.694 **	.174	YES	1.200	-2.372 *	1.794
NO	-2.906 **	2.694 **	-.174	NO	-1.200	2.372 *	-1.794

*: p < .05. **: p < .01

統計的に有意な相関は現実的と研究的尺度の相関であった。傾向尺度においては、自己統制と他尺度との間で、正の相関が見られた。更に、黙従反応は、慣習的尺度を除く興味領域の五尺度と正の有意な相関を示した。

4. 考察

本研究は、視覚という主要な情報入力源に障害がある場合、個人的な経験、或いは、様々な偶然が影響を及ぼす職業に対する興味・関心が異なるか否かを検討することを目的とした。

表3 11尺度の平均と標準偏差

		Mean	SD	n
現実的	健常	2.283	2.783	92
	弱視	3.011	3.427	91
	全盲	3.696	3.377	23
研究的	健常	4.185	3.619	92
	弱視	3.066	3.669	91
	全盲	3.522	3.383	23
社会的	健常	6.793	3.651	92
	弱視	3.429	3.256	91
	全盲	3.391	2.311	23
慣習的	健常	2.359	2.679	92
	弱視	2.912	3.258	91
	全盲	3.261	3.320	23
企業的	健常	2.663	2.984	92
	弱視	2.714	2.833	91
	全盲	2.652	2.442	23
芸術的	健常	3.739	3.800	92
	弱視	3.143	3.271	91
	全盲	4.826	4.097	23
自己統制	健常	9.587	4.069	92
	弱視	8.868	4.733	91
	全盲	8.391	4.449	23
男性-女性	健常	3.728	2.278	92
	弱視	5.462	2.647	91
	全盲	5.435	2.826	23
地位志向	健常	6.946	2.743	92
	弱視	6.604	2.687	91
	全盲	6.087	2.575	23
希有反応	健常	6.098	3.365	92
	弱視	7.352	3.504	91
	全盲	6.826	2.839	23
黙従反応	健常	9.457	5.817	92
	弱視	7.736	5.000	91
	全盲	9.435	5.384	23

視覚障害者の職業興味については、所属する学科と職業興味との関係というような観点から検討を行ってきたが¹⁰⁾、一方で、視覚障害者における移動や文字情報の獲得の困難さ・制限から生じる経験不足、正確な知識、或いは、無意識に入力されるべき様々な視覚情報の少なさが、職業興味を狭いものにしていないかという疑問から、本研究の目的が設定された。

目的の検討には、三つの測度を用いた。各職業に対する興味の有無、11の尺度に対する尺度点、そして、尺度間の相関である。

職業に対する興味の有無については、28の職業に関して、健常群、弱視群、全盲群の間で関心・興味を示す人数の偏りが見られた。

28種の職業について検討すると、視覚障害二群に比べ健常群で有意に興味の高い解答を示したのは12種あったが、幼稚園教員、言語治療士、カウンセラー、ソーシ

表4 分散分析結果

現実的興味領域尺度				
	自由度	平方和	平均平方	F
群	2	46.834	23.417	2.362
誤差	203	2012.511	9.914	
研究的興味領域尺度				
	自由度	平方和	平均平方	F
群	2	57.502	28.751	2.198
誤差	203	2655.202	13.080	
社会的興味領域尺度				
	自由度	平方和	平均平方	F
群	2	579.068	289.534	25.724 **
誤差	203	2284.840	11.255	
慣習的興味領域尺度				
	自由度	平方和	平均平方	F
群	2	22.042	11.021	1.209
誤差	203	1850.895	9.118	
企業的興味領域尺度				
	自由度	平方和	平均平方	F
群	2	0.147	0.074	0.009
誤差	203	1664.343	8.199	
芸術的興味領域尺度				
	自由度	平方和	平均平方	F
群	2	55.372	27.686	2.124
誤差	203	2646.186	13.035	
自己統制傾向尺度				
	自由度	平方和	平均平方	F
群	2	37.994	18.997	0.974
誤差	203	3958.200	19.499	
男性-女性傾向尺度				
	自由度	平方和	平均平方	F
群	2	152.016	76.008	12.069 **
誤差	203	1278.474	6.298	
地位志向傾向尺度				
	自由度	平方和	平均平方	F
群	2	15.027	7.514	1.030
誤差	203	1480.313	7.292	
希有反応傾向尺度				
	自由度	平方和	平均平方	F
群	2	72.144	36.072	3.167 *
誤差	203	2312.171	11.390	
黙従反応傾向尺度				
	自由度	平方和	平均平方	F
群	2	149.584	74.792	2.545
誤差	203	5966.149	29.390	

*: $p < .05$, **: $p < .01$

ャルワーカーなど、多くは福祉、教育関係の職業であり、この様な領域における健常者と視覚障害者の関心の高さの違いが顕著である。

一方、視覚障害群で高い値を示したのは7種で、マッサージ師、オペレーター、各種技師などであり、上記の他者を指導したり、相談にのったりと言う職業に対して、個人の技能を尊重し、対処の仕方の明確な職業への興味

表5 11尺度間の相関(健常群)

	現実的	研究的	社会的	慣習的	企業的	芸術的	自己統制	男性-女性	地位志向	希有反応	黙従反応
現実的	1.000										
研究的	.653 **	1.000									
社会的	.315 **	.351 **	1.000								
慣習的	.396 **	.248 *	.337 **	1.000							
企業的	.461 **	.426 **	.449 **	.514 **	1.000						
芸術的	.414 **	.419 **	.296 **	.319 **	.390 **	1.000					
自己統制	-.544 **	-.464 **	-.162	-.134	-.333 **	-.249 *	1.000				
男性-女性	.144	.198	-.224 *	.119	.125	-.011	.341 **	1.000			
地位志向	-.071	.219 *	.200	-.051	-.001	.116	.431 **	.490 **	1.000		
希有反応	-.070	-.141	.008	.223 *	.024	-.112	.400 **	.252 *	.076	1.000	
黙従反応	.579 **	.666 **	.495 **	.331 **	.627 **	.549 **	-.397 **	.029	.159	-.171	1.000

*: p < .05. **: p < .01

表6 11尺度間の相関(弱視群)

	現実的	研究的	社会的	慣習的	企業的	芸術的	自己統制	男性-女性	地位志向	希有反応	黙従反応
現実的	1.000										
研究的	.508 **	1.000									
社会的	.379 **	.566 **	1.000								
慣習的	.494 **	.481 **	.460 **	1.000							
企業的	.474 **	.361 **	.366 **	.627 **	1.000						
芸術的	.410 **	.486 **	.458 **	.284 **	.426 **	1.000					
自己統制	-.299 **	-.280 **	-.117	-.087	-.169	-.219 *	1.000				
男性-女性	.350 **	.118	-.150	.255 *	.222	.060	.361 **	1.000			
地位志向	.103	.105	.208 *	.114	.121	.113	.516 **	.418 **	1.000		
希有反応	.044	-.056	.143	.231 *	.045	-.087	.523 **	.390 **	.229 *	1.000	
黙従反応	.607 **	.631 **	.612 **	.460 **	.530 **	.666 **	-.302 **	.133	.242 *	-.069	1.000

*: p < .05. **: p < .01

表7 11尺度間の相関(全盲群)

	現実的	研究的	社会的	慣習的	企業的	芸術的	自己統制	男性-女性	地位志向	希有反応	黙従反応
現実的	1.000										
研究的	.472 *	1.000									
社会的	.272	.345	1.000								
慣習的	.348	.121	.371	1.000							
企業的	.290	.249	.549 **	.522 **	1.000						
芸術的	.617 **	.522 **	.387	.110	.207	1.000					
自己統制	-.276	-.201	-.365	-.100	-.338	-.265	1.000				
男性-女性	.191	-.182	-.327	.167	.029	-.119	.535 **	1.000			
地位志向	-.201	-.099	-.273	-.061	-.089	-.296	.596 **	.538 **	1.000		
希有反応	-.025	.081	-.031	-.024	.109	-.429 **	.348	.174	.282	1.000	
黙従反応	.578 **	.593 **	.607 **	.321	.551 **	.729 **	-.560 **	-.318	-.249	-.280	1.000

*: p < .05. **: p < .01

が高いことを示した。技術を持ち、出来るだけ早く職業自立をとるという考えの現れと推測できる。

これら2種に対し、三番目に分類された職業は、視覚障害者の中で、興味が別れたものである。しかしこれらについては、残差分析において、数値及びその正負において、健常群と視覚障害二群とに分けることが出来なかったものであり、統計的に多くは、健常群と全盲群、健常群と弱視群というように分類できるものである。統計的に全盲群と弱視群の好みの違いが有意な職業は発破係のみである。5%水準で全盲群の関心の高さが示された。理由は必ずしも明確ではないが、実際に自分が就きたい職業としてではなく、興味を持った職業として捉える必要がある。或いは、日常的に聞き慣れない職業に対する好奇心が数値となって生じたことも考えられる。

11の尺度についてみると、3つの尺度で群間の違いが見られた。社会的興味領域尺度では、健常群と視覚障害二群との間で見られ、前者で高い値を示した。この社会的興味領域尺度は、人に接したり、奉仕したりする仕事や活動に対する好みや関心を示しており、前述の考察を裏付ける結果となっている。近年、各地のボランティア活動などでは、障害者がボランティアを受ける側から提供する側へという変化も見られており、職業選択においても、福祉に世話になる側から提供する側へという意識の変化が欲しいところである。なお、どの尺度においても、視覚障害二群間で統計的に有意な差は認められなかった。

更に、これら11尺度の相関について検討を行った。先行研究で、興味領域六尺度間の相関は高いことが報告

されており、本研究においてもこれらと一致した。特に、健常、弱視両群は、統計的にも、有意な高さを示した。一方、全盲群では数値的には、他二群と相関の高さが変わらないものもあったが、データ数が少ないことから、統計的な有意差は示さなかった。この点に関しては、データ数を更に揃える必要があるが、全三群ともに正の相関を示したことは、六尺度から見た場合、興味・関心という心理的特性について、基本的に三群間には違いがないことを示す結果であろう。

以上をまとめると、いくつかの職業に関しては、健常群と視覚障害二群との間に、興味・関心の高さに違いが見られた。視覚障害者においては、特に、福祉、教育などに関わるものへの興味が低く、逆に職業自立に直接的に関わるような職業への関心が強く、これは、社会的興味領域尺度の得点の低さに反映されていた。視覚障害群内では、弱視と全盲の間に違いは見られなかった。

これらに関わらず、職業に対する心理特性の内的構造を尺度間の相関としてみたとき、三者間に際立った違いは認められなかった。

5. 参考文献

- 1)石田久之：視覚障害学生の職業興味について、筑波技術短期大学テクノレポート, No.3, pp.219～223(1996).
- 2)石田久之：視覚障害学生の職業興味について(II), 筑波技術短期大学テクノレポート, No.4, pp.225～227(1997).
- 3)松本卓三・熊谷信順編著, 職業・人事心理学, 初版, pp.62～74(1992), ナカニシヤ出版.
- 4)渡辺三枝子, 松本純平, 舘暁夫, 松本真作: Hollandの職業選択理論の日本人大学生への適用に関する研究(1), 進路指導研究, No.3, pp.2～9(1982).